

## まるごと中級1 (B1) コースの実践報告 — 受講生・講師の声を反映させた授業の試み —

ホアン ホン ニュン

ベトナム日本文化交流センター ハノイ

### 1. はじめに

2008年3月、国際交流基金ベトナム日本文化交流センター（以下、JFVN）は、東南アジアで5番目の海外拠点としてハノイに開設された。JFVNではハノイ、ホーチミンの2か所でJF日本語教育スタンダード準拠の日本語講座が開始された。ハノイの日本語講座は2012年に『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）を使った入門コースの最初のクラスが開講されてから、続けて3クラス開講し、現在ほどのクラスも『まるごと中級1 B1』を使用したまるごと中級1 (B1) コースに進んでいる。

本レポートでは、当講座の4つのクラスのうち、最初にまるごと中級1 (B1) コースに進んだ2つのクラスでの問題点の分析と、その問題点を踏まえて設計した新しいコースの実践について、また、その実践に対する受講生と講師へのアンケート調査の結果を分析し、報告する。

### 2. まるごと中級1 (B1) コース

#### 2.1 2つのクラスのコース内容

『まるごと中級1 B1』の教科書は全9トピックだが、最初に開講した2つのクラスではトピック1～5を前半コース、トピック6～9を後半コースに分けて設計した。1つのトピックを全6回の授業（1回2時間）で終わらせるように設計した。

＜前半コース内容＞

オリエンテーション	30分
トピック1～5	60時間 (6回×5トピック=30回)
総復習①（トピック3の後）	2時間（1回）
総復習②（トピック5の後）	2時間（1回）
テスト（会話と筆記）&振り返り	4時間（2回）
総時間：68.5時間（34回）	

表1：前半コースの1トピックの流れ

1回目	準備+Part1
2回目	Part2①（会話導入～会話に役立つ文法）
3回目	Part2②（ロールプレイの準備、練習、実践） / Part3①（「長く話す」導入～メモの準備）
4回目	Part3②（「長く話す」練習と実践） / Part4
5回目	Part5 / あまった時間でトピックに関連した文化学習
6回目	復習（語彙、漢字、文法、会話） / Can-do/日本語チェックの振り返り

### 1回目

準備のページでトピックや語彙の導入を行い、その後テキストに沿ってPart1の終わりまで進める。

### 2回目

Part2は会話の導入から始まり、最後はロールプレイを行うことになっているが、表1にある通り、当講座のコースでは、Part2を1回の授業で終えずに、2回に分けている。当講座では「文法はできるだけ詳しく、しっかり教えてほしい」という受講生からの声が多いということや、ベトナムでの言語学習スタイルとして「文法を中心に」という考え方が強いという背景から、そのような受講生からの要望に応えるとなると、1回（2時間）の授業でPart2のロールプレイまでを終わらせるのは困難であるため、Part2①（会話導入～会話に役立つ文法）までにした。

### 3回目

Part2②では、ペアでのロールプレイを中心に、その準備（発音、話すためのストラテジー）から始め、ロールプレイの練習と発表を行う。Part3①では、教科書の例の導入から表現の確認、そして自分のことについて発表するための準備としてメモを書くところまでを行う。

### 4回目

Part3②活動では、受講生を3～4人のグループに分けて、グループの中で発表・質問し合えるようにしている。具体的な流れは以下の通りである。

- 1) クラスを3～4人ずつのグループに分ける。
- 2) グループの中で一人ずつテーマについてメモを頼りに話す。聞いている人はもっと知りたいことやわからないことについて質問する。
- 3) グループ活動が終わったら、印象に残った／おもしろかった話について、全員で情報共有する。
- 4) もう一度聞きたい／みんなに聞いてほしい話をした人がいたかどうか受講生に質問し、時間があれば全員の前で発表してもらう。

グループでの活動は受講生にとって新鮮で刺激的だと考えてこのような流れにしたが、各グループの一人一人の様子をしっかりと見ることが難しいという問題も考えられた。そこで、授業中に発表した内容をもう一度家でまとめて、作文に書いてくるという課題を取り入れ、受講生が話した内容を講師がしっかり確認できるようにした。当講座では、普段から「もっと作文の練習がしたい」という受講生も多いため、その要望に応えるという意味も込められている。

続く Part4 では、テキストの内容通り読解文を読みながら問題に答えていき、読むためのストラテジーと読むのに役立つ文法の説明へと進む。上述の通り、ベトナムでは「文法はしっかり学びたい」という意識が強いが、読むのに役立つ文法については、その位置づけを受講生に説明し、使えるようになることではなく意味が理解できることを目標としているため、ここではあまり大きく時間を取らないようにしている。

## 5回目

Part5 の「書く」活動では、プロフィールやメールなどを書くことになっているが、当講座では、受講生同士が互いに書いたものを読み合い、コメントし合えるよう、下のような流れで活動を行っている。

- 1) 教科書の情報が入った A4 のワークシートを配布し、まずは表面に書く内容を整理する。  
(ワークシートの内容は教科書とほぼ同じだが、書きたいことを整理できるように一部編集して使用している。このワークシートについては、資料1を参照)
- 2) 書く内容の整理が終わったら、ワークシートの裏面に記入していく。
- 3) 書き終わったら、一度講師に提出する。
- 4) 講師が集めたワークシートをランダムに受講生に配る。
- 5) 受講生は自分以外のワークシートを読んで、内容や日本語について質問やコメントを書く。
- 6) 受講生は自分のワークシートと他の受講生からのコメントを見て、内容・日本語を再度チェックし、必要があれば修正を加える。

4) と 5) は 2 回繰り返すため、一人の受講生が自分以外の 2 つのワークシートを読み、質問やコメント、感想等を書くことになっている。また、1) ～ 6) が終わった後、授業時間に余裕がある場合は、受講生のトピックへの理解を促進し、より強く興味を持てるように、関連動画を視聴したり、トピックに関連するテーマでグループワークや簡単なディスカッションを行う時間を設けている。

## 6回目

受講生が Part1 から Part5 までにどのようなことを学んだか、また、どれぐらいわかる／できるようになったかを振り返れるように、各パートの Can-do をもう一度確認している。トピック全体 (Part 1 から Part 5 まで) の復習が終わったら、最後に Can-do/日本語チェックの振り返りと文化体験記録シートへの記入の時間を設けている。それぞれで使っているシートは以下のような内容である。

## Can-do/日本語チェックの振り返りシート

トピック内の Can-do/日本語チェックをまとめて、もう一度振り返りながらチェックを行うための Can-do/日本語チェックの「振り返りシート」を A4 の紙で作成した。そのシートを使って、1～5 回目の各授業で評価した Can-do/日本語チェックをもう 1 回見返しながら、トピックが終わった時点での自己評価を行う。星の数で達成度を評価した後は、下のスペースにわかった／まだわからないこと、できた／できなかったこと、難しかったこと、トピックについて感じたこと、今後の目標などを書くことになっている。(実際に使用しているシートは資料 2 を参照)

## 日本・ベトナム文化体験記録シート

受講生が自由に日本やベトナムの文化について新しく知ったこと、気づいたこと、発見したことや感じていることなどを書くために、文化体験を大きく 6 つのカテゴリーに分けた A3 のシートを作成し、そこに日本語かベトナム語で記入することになっている。(実際に使用しているシートは資料 3 を参照)

### 2.2 前半コース終了後の受講生、講師からの声

2.1 の内容で前半コースを設計し、4 つあるうちの 2 つのクラスで実施した。当講座では、コース終了後にコース内容の妥当性や改善点を探るため、受講生に授業評価アンケートを行っているが、2.1 のコース内容について 2 つのクラスからは以下のような声が聞かれた。

- 何を書くのか分からなかったので、Can-do/日本語チェックシートや振り返りシート、文化体験記録シートへの記入は必要ない。
- 勉強したことを理解して覚えることがあまりできなかったため、次の授業ではもっと復習の時間がほしい。
- 講師と日本語で自由に話す時間がもっとほしい。
- 日本文化について紹介したり、情報交換したりする時間がもっとほしい。
- 6 回目の復習の時間は、休んでいた人にはいいかもしれないが、休まずに出席していた人や内容をしっかり理解できた人には退屈だ。

また、当講座で初めての中級コースだったということもあり、受講生だけではなく授業を担当した講師全員でコースの反省・振り返りを行ったところ、以下のような意見が挙がった。

- 初中級コース以降、言葉や表現などについて、これまでより多く質問が受講生から出てくるようになったが、授業時間内にすべての質問に答えるのは難しい。
- 欠席者や理解が不十分な受講生のことを考えると、6 回目の授業をなくすことはできないが、もう少し新しい要素を加えるなど、改善が必要だと感じる。
- 今まで受講生が記入した文化体験記録シートは、授業を担当した講師だけが読んでコメントしてきたが、日越の文化を比較したり、興味を持った点について自分で調べたりしている受講生のコメントを見ると、受講生と講師の一对一でのやり取りだけではもったいない。クラス全体で考えるとおもしろい内容も多い。

そこで、以上の受講生と講師からのコメントや意見をまとめ、問題点を検出し、再度講師全員で話し合いながら、どのような改善が必要か検討していった。問題点とその改善策は以下の通りである。

**【問題点 1】** Can-do/日本語チェックシート、振り返りシート、文化体験記録シートにあまり意義を見出せていない受講生がいる。



Can-do/日本語チェックや振り返りシート記入へのモチベーションを高め、必要性を感じられるようにするため、受講生が振り返りシートや文化体験記録シートに書いたコメントを各受講生と講師の間だけのものではなく、受講生同士で確認できるような時間を設ける。

**【問題点 2】** 受講生からの語彙の使い方や表現、文法などについての質問が増えているが、一人一人、一つ一つにじっくり対応できる時間がない。



授業中に対応しきれない質問や個別に受けた質問を効果的に全体で共有するため、受講生からの質問やリクエストに応える時間を確保する。

**【問題点 3】** Can-do/日本語チェックシートも振り返りシートも文化体験記録シートも受講生と講師の間でしか共有していないので、広がりがなく、もったいない。



振り返りシートへのコメントを全体で共有し、全体で理解度・熟達度や疑問点について話し合う時間を設ける。また、文化体験記録シートに記入した内容も意見交換やディスカッションの題材としてクラス全体で共有する。

**【問題点 4】** 1トピックを6回で終えるコース設計の場合、受講生が望んでいるような、自由に日本語で話せる時間までは取れない。



当初設計した1トピックを6回で終わらせるという時間設定では実現が難しいため、問題点1～4の内容を反映させた「7回目の授業」を新しく設定する。

以上の内容を踏まえ、既に2.1のコース設計で前半コースの授業を受けた2つのクラスについては後半コースから、新しく前半コースを進むことになっていた他2つのクラスについては前半コースから、新たに7回目の授業を導入したコースを実施することになった。具体的なコース内容は以下の通りである。

### <前半コース>

オリエンテーション	30分
トピック1～5	70時間（7回×5トピック=35回）
総復習①（トピック3の後）	2時間（1回）
総復習②（トピック5の後）	2時間（1回）
テスト（会話と筆記）&振り返り	4時間（2回）
総時間：78.5時間（38回）	

### <後半コース>

オリエンテーション	30分
トピック6～9	56時間（7回×4トピック=28回）
総復習①（トピック7の後）	2時間（1回）
総復習②（トピック9の後）	2時間（1回）
テスト（会話と筆記）&振り返り	4時間（2回）
総時間（64.5時間=32回）	

## 3. 新しく設定した「7回目の授業」

2.2の改善策を基に、2.1で紹介した当初のコースに新しく「7回目の授業」として、以下のような内容の授業を設計した。

- ①トピックについて感じたことを共有する
- ②振り返りシートのコメントの共有と意見交換
- ③分かりにくかった／もう一度復習したい文法・語彙の勉強
- ④文化体験記録の共有と意見交換
- ⑤ディスカッション（※時間が余りそうな時のみ）
- ⑥7回目の授業の振り返り

なお、7回目の授業では、受講生からのさまざまな質問に対応できるよう、また、日本語だけでは難しい意見交換やディスカッション部分を内容・言語の両面でサポートできるよう、日本人講師とベトナム人講師でのチームティーチングで行った。

### 3.1 7回目の授業の準備と実践

6回目の総復習の授業で受講生が振り返りシートや文化体験記録シートに書いたコメントをパワーポイント（以下、PPT）のスライドにまとめて、各コースの教材を作成する。授業の準

備は国際交流基金から派遣されている JF 講座担当専門家を中心に、授業担当者が協力して行うことになっている。具体的には、3. の①～⑥の項目について以下のような準備を行い、授業を実践している。

<b>①トピックについて感じたことを共有する。</b>	
授業時	学習したトピックの内容や自分が興味を持った点などについて、5分程度ペアで意見交換をする。その後、全体で共有。
<b>②振り返りシートのコメントの共有と意見交換。</b>	
準備	ベトナム人講師と日本人講師が受講生のコメントを共有するために、6回目の授業で受講生が書いた振り返りシートへのコメントを日本語訳し、それぞれ「学んだこと／感想」「難しかったこと／わかりにくかったこと」「授業への提案」の3つに分類して受講生にわかる日本語でPPTのスライドにまとめておく。
授業時	コメントを書いた受講生が詳しくコメントの内容や理由を話しながら、各コメントをPPTで表示して、全体で共有する。その時、コメントについてクラス内で「同じように感じたか」「どうすればいいか」など、意見交換も行う。基本的には日本語で行うが、難しい場合はベトナム語で話してもいいことになっている。
<b>③分かりにくかった／もう一度復習したい文法・語彙の勉強</b>	
準備	振り返りシートで「もう一度勉強したい」「もっと詳しく知りたい」「よく分からなかった」というコメントがあった文法や語彙について、1回目から5回目までの授業で使ったPPTスライドも再度使いつつ、より詳しい説明や練習問題、活動などを加えたPPTを準備しておく。
授業時	準備したスライドを使い、似ている文法の違いの確認や練習問題、活動などを行う。
<b>④文化体験記録の共有と意見交換</b>	
準備	振り返りシートと同様に、文化体験記録シートも日本人講師とベトナム人講師が共有できるように日本語訳をしておく。その中から、クラス全体で共有すると盛り上がりそうなテーマやディスカッションのテーマとなりそうなものを選び出し、必要に応じてイラストや写真、動画などの情報を加えてPPTにまとめる。
授業時	自分が書いた内容がPPTに表示された受講生は、自分で書いた内容について詳しく話す。そして、他の受講生がそれについてどう考えるか、日本とベトナムで同じ／異なる点はないか、全体で意見交換を行う。
<b>⑤ディスカッション</b>	
準備	④までPPTを作成した段階で、授業時間に余裕がありそうな場合は、トピックに関連したディスカッションのテーマを探るか、文化体験記録シートに書かれたコメントの中で、ディスカッションのテーマにできそうなものを少し掘り下げた状態でPPT上に準備しておく。
授業時	授業時間が十分残っている場合は、ディスカッションのテーマを全体で共有し、まずはペアで意見交換を行い、その後全体でそのテーマについてどのような考えを持っているかについて話し合う。
<b>⑥7回目の授業の振り返り</b>	
授業時	最後に、振り返り授業の内容や流れについて、どのように感じたか、自由に受講生に意見を述べてもらう。

### 3.2 授業中の受講生の様子

最初は初めての授業内容に戸惑いを見せていた受講生も見られ、講師側も受講生の反応を見ながら手探り状態で授業を行っているという状況だった。しかし、徐々に受講生も積極的に発言・参加するようになり、「わからなかった点を詳しく説明してもらえてよかった」「みんなと自由に日本語で話せるので楽しい」という声も多くなっていった。

## 4. 7回目の授業に対する受講生、講師の評価

7回目の授業に対する受講生の反応は概ね好意的であったが、受講生が授業内容に満足しているか、当初のコースで出てきた問題点を改善できているか探るため、7回目の授業を経験したすべての受講生にアンケート調査を行った。また、講師が7回目の授業についてどのように感じたかについても、非常勤講師2名（日本人、ベトナム人）を対象に調査を行った。

### 4.1 調査方法

対象者：1) 7回目の授業を経験したことのある受講生（39名）

2) 7回目の授業を担当したことのある／している非常勤講師（2名）

調査方法：アンケート調査

1) の対象者には7つの項目について、2) の対象者には6つの項目について、4段階での評価や具体的なコメントを求めた。

### 4.2 調査結果の分析

調査後、受講生向け、講師向けの全てのアンケート結果を集計し、ベトナム語で書かれたコメントは日本語に翻訳した。ここでは、受講生向けアンケートの調査結果と講師向けアンケートの調査結果の2つを分けて、得られた結果の分析を行う。なお、受講生向けのアンケート調査の具体的な項目と結果については資料4を、講師向けのアンケート調査の具体的な項目と結果については資料5を参照していただきたい。

#### 4.2.1 受講生向けのアンケート調査結果の分析

受講生向けのアンケート調査は資料4にある通り、7つの項目に分かれている。ここでは、得られたアンケート調査結果と受講生からのコメントを基に、以下①～④の4つのポイントに絞って、7回目の授業の成果と課題を分析する。

##### ① 7回目の授業の実施に対する総合的な評価

受講生向けアンケート調査項目のうち、7回目の授業での学びがあるかどうか、必要性があるかどうかについて質問した項目から、総合的には7回目の授業の実施に対して大半の受講生



が肯定的な評価をしているということが分かった。また、具体的なコメントを見ても、トピックについて、「自分の感想が話せるようになった。」「他の人の意見・考えを聞くことができた」というコメントからは、7回目の授業がトピックの振り返りとして機能しているということが窺え、「他の授業より日本語を使う時間が多い」「自由に好きなテーマについて、より多く話すことができた」というコメントからは、日本語に触れる機会や日本語でのやり取りの機会が増えたと感じられているということが分かった。しかし、それが日本語力の向上につながったかという観点では、肯定的な意見と否定的な意見とに分かれる結果となった。

### ②日本語で自分の考えや感想、体験を共有する場としての機能

アンケート調査項目の結果から、7回目の授業の中の要素で、特に受講生から肯定的に受け入れられていたのが「文化体験記録の共有」と「教科書から離れて自由に日本語で話す」という2つである。「クラス全体での話し合いや意見交換を通して、気づきや発見を得られた」「自分で考えたり調べたりするようになった」という受講生のコメントから、情報・意見の共有が授業内で効果的に機能しており、受講生が互いに刺激し合っていたということが窺える。また、文化体験記録の共有は基本的に日本語で行い、さまざまな話題について意見交換するという流れだったため、クラスメートとの日本語での意見・情報交換を通して、自由に日本語で話すことができたと感じた受講生も少なくなかった。

しかし、振り返りシートへのコメントの共有については、否定的な意見があったわけでは無いが、文化体験記録の共有ほど受講生の印象には残らなかったようだ。理由としては、もともと Can-do/日本語チェックシートや振り返りシートの必要性に対して懐疑的な考えを持っている受講生が少なからず存在すること、また、7回目の授業で受講生のコメントを共有する際、活発に意見交換が生まれるような流れが作れていなかったということが考えられる。振り返りシートへのコメントの共有の際も、文化体験記録の共有と同じように、受講生同士の日本語でのやり取りが生まれる仕組みが必要かもしれない。

### ③復習・発展の場としての機能

アンケート調査結果から、7回目の授業は文法・表現の復習の場となり、より詳しく知りたい文法・表現についても学べる時間になったということが窺えた。しかし、文法・表現の復習・練習内容は6回目の内容とは違うものを用いているにもかかわらず、「復習は6回目の授業だけで十分」、「7回目の授業での復習の意義があまり感じられない」、「7回目の授業で文法を復習すると、授業がつまらなくなると思う。その代わりにみんなとトピックについて話し合いたい」というコメントを寄せた受講生もいた。これについては、7回目の授業に求めている受講生の個々のニーズが異なっていることが大きいのではないかと考える。受講生の中には、

「より詳しく、徹底した文法・表現の解説、練習をしてほしい」と望む人もいれば、「細かい部分は気にしないで、とにかく日本語でたくさん話せる時間がほしい」と望む人もいるため、7回目の授業内容のバランスをうまく判断することが重要だということがわかった。また、文法・表現の復習については、「もう知っているから意味がない」と感じている受講生がいることも考えられるため、そのような場合には受講生同士で効果的に知識の共有、助け合いができるように講師側がうまくそのような流れを生み出すことで対応できるかもしれない。

#### ④受講生の学習姿勢や意識の変化

アンケートで得られたコメントを見ていると、授業内容に関する意見や感想だけではなく、「自律学習が必要だと思う。家で自分で勉強しなかったら、授業を1回増やしても意味がない」「講師はあくまで“授業中に”教えてくれる人なので、何かを身に付けたいのなら自分で勉強する必要がある」など、受講生自身が自分たちの学習姿勢について言及しているコメントがいくつも見られた。受講生の中には、中級に入ってから、入門や初級の時と同じように「授業に出れば全てのことがわかる／できるようになるはず」「教師が全ての物を与えてくれる」という意識を持ち続けている人もおり、学びたいことや情報の全てを授業で提供してほしいという声も多い。一方で、中級に入ってからその姿勢に疑問を持ち始めた受講生も少なくない。中級に入る際に、講師側からも自分の学習を自分で管理することの必要性や自律学習の重要性について積極的に呼び掛けていたこともあってか、「自分で準備しなければ授業の意味がない」「自律学習が必要だ」という意見は、今回のアンケート調査の中だけではなく、授業時にも聞かれるようになってきている。この点は、今回のアンケート調査で浮かび上がることを予想してはいなかったが、本調査で得られた一つの重要な情報となった。7回目の授業では、「学習方法」についてアイデアを共有したり、意見交換をすることはあるが、「学習姿勢」についてはこれまであまり深く話し合ったことがなかったため、今後はその機会を設けて、受講生同士で意見を交わす時間を作ることで、受講生の自律学習への意識を高められるのではないかと期待している。

#### 4.2.2 講師向けのアンケート調査結果の分析

受講生向けのアンケート調査と同様に、講師向けのアンケートについても6つのアンケート項目から得られた結果を基に、以下①～③のポイントに絞って分析を行う。

##### ①7回目の授業の実施に対する総合的な評価

アンケート調査に協力した2名のどちらの講師からも7回目の授業が効果的で、授業に積極的に取り組んでいる受講生が多いと感じているという評価が得られた。また、トピックへの理解について、講師目線では文法・内容の双方で受講生の理解が深まったと感じられたというコ

メントが寄せられた。また、7回目の授業の存在が受講生の学習の振り返りや授業への姿勢にいい影響をもたらしているということが指摘されており、2.2で挙げた当初のコースでの問題点を少しずつ改善の方向に進められているということが感じられた。

## ②受講生が振り返りシートや文化体験記録シートへのコメントを共有する場としての機能

7回目の授業の中で特に重要だと感じた要素について、受講生向けのアンケート調査結果と同様に、講師からも「新しい文化体験をしようというモチベーションを高めることに役立ったと思う。多くの受講生が以前よりも熱心に書くようになってきている」などのコメントがあり、文化体験記録の共有の時間が最も有意義だと感じられたということがわかった。しかし、振り返りシートに書いたコメントの共有については、「時間内に終えようとすると、受講生のコメントや意見が紹介にとどまってしまう」という問題が指摘された。これは、「振り返りシートへのコメントの共有」が他の要素に比べて受講生からの評価がやや低かったこととつながるのではないかと考える。筆者自身、授業を担当している際に、つい文法・表現の復習や文化体験記録の共有により多くの時間を充ててしまい、学習の振り返りの共有については、紹介程度にとどまってしまうということが何度かあった。学習の振り返りは文化体験記録の内容に比べると、「共有」はできても、そこから話を発展させるには、事前に授業者の中に明確なプランがないと難しい。限られた時間の中でいかに効果的に、受講生に考えるきっかけや議論のきっかけを与えられるかが今後の課題となるだろう。

## ③復習・発展の場としての効果とそれを生み出す難しさ

4.2.1の③でも述べたように、文法・表現などの復習については、一部の受講生からは不必要というコメントもあったが、受講生、講師ともに7回目の授業を通して文法・語彙・表現の理解度が高まるという意見もあるため、一定の効果は得られているものと考えられる。

しかし、講師が苦勞していることとして挙げたコメントには「トピックから大きく外れない練習を作るのが大変」という意見もあり、文法・表現などの復習問題を準備する難しさも指摘されていた。7回目の授業に関しては、各クラスに合わせてオーダーメイドで対応しなければならないため、授業担当者の負担は他の授業よりも大きいと思われる。また、特にノンネイティブ教師からは「文化に関して知識が浅いので、対応するのが大変」というコメントも出ており、受講生から寄せられるさまざまな日本語や日本文化にまつわる疑問・質問に対応することや、そこからうまくクラス内での意見交換やディスカッションを促せるようにクラスを導いていくためには、十分な事前準備とある程度の経験が必要となるということがわかった。

## 5. まとめと今後の課題

本報告では、ハノイ JF 講座が初めて設計した「まるごと中級 1B1」コースの実践結果から得られた問題点を踏まえて新たな授業を設計し、受講生と講師へのアンケート調査の分析を通してその評価を行った。そして、まだ改善の余地はあるものの、調査結果からは当初の問題点を少しずつ改善させられているのではないかとということがわかった。今回得られた受講生・講師からの声を受け、今後は以下の点を中心に更なる検討と改善を重ねていきたい。

✓ Can-do/日本語チェックの振り返りの共有が効果的にできていないことが多いため、受講生が学習の振り返りの共有を通して、学習方法やストラテジー、学習姿勢について意見交換や話し合いができるよう、講師が受講生を導く工夫をする。

✓ 調査結果から、6回目の復習授業と7回目の授業（主に文法や表現の復習・発展練習）が一部の受講生にとっては同じものだと感じられていたことがわかったため、それぞれの授業の意図が伝わるように差別化を図る。具体的には、7回目の授業の文法、語彙、表現の復習内容・方法にバリエーションを持たせたり、受講生のやり取りが増えるような活動を取り入れるということが考えられる。

✓ 7回目の授業の内容と時間配分については、調査では「大切なポイントを中心に授業時間を使ってほしい」という受講生からのコメントも見られたため、7回目の授業のどの部分が受講生にとって重要となるかを検討し、各項目の時間配分を調節していく必要がある。また、項目によっては7回目の授業で大きく取り上げるのではなく、個別指導で対応するという事も考えられる。

資料1 : Part5 で使用しているワークシート (トピック3)

表

名前: \_\_\_\_\_

**PART 5 いっしょに行かない?**

Can-do 1.5 コンサートに友人を誘うメールを書くことができます。そのとき、どんなコンサートを推薦に説明できる。

1 コンサートに友達を誘うメールを書きましょう。

(1) 次のメールは、かおるさんが、マキさんから BEGIN のライブに誘われたときのメールです。見てみましょう。

\*\*\*\*\* 10:21

受信

差出人: マキ  
宛先: かおる

BEGINのライブ  
2011年2月15日 10:05

かおるへ

元気?

実は、BEGINのコンサートチケットがあるんだけど、いっしょに行かない? 4月12日、時間は午後5時半から、場所は埼玉県国際センターホール。かおるも、BEGINの歌、カラオケで歌ったりして、好きだったよね? BEGINはやっぱりライブで聞かなくちゃ。雰囲気もいいし! ぜひたいぶ楽しめようよ☆d(▽)☆

いっしょに行こうよ。道事は今日の午後3時までにおねがいします。

マキ

(2) まず、メールを書く準備をしましょう。

\*\*\*\*\* 10:21

キャンセル 新規メッセージ 送信

宛先: \_\_\_\_\_

Cc/Bcc, 差出人: \_\_\_\_\_

何のコンサート?

→ \_\_\_\_\_

いつ?

→ \_\_\_\_\_

どこで?

→ \_\_\_\_\_

返事はいつまで?

→ \_\_\_\_\_

裏

10:21

キャンセル 新規メッセージ 送信

宛先: \_\_\_\_\_

Cc/Bcc, 差出人: \_\_\_\_\_

件名: \_\_\_\_\_

資料2 : Can-do/日本語チェックの「振り返りシート」 (トピック4)

表 (Can-do チェックの振り返り)

Can-do	評価
① テレビの旅行番組の現地中継レポートを聞いて、温泉や旅館の特徴や魅力が理解できる。 Bạn có thể hiểu được sự cuốn hút và đặc trưng của suối nước nóng, nhà nghỉ kiểu Nhật khi nghe báo cáo chương trình du lịch trên ti vi trực tiếp từ nơi đó.	☆☆☆
② 食事や部屋などについて、ホテルや旅館に、理由を言って変更してもらうことができる。 Bạn có thể được thay đổi phòng hay đồ ăn khi nói lí do với khách sạn hay nhà nghỉ kiểu Nhật.	☆☆☆
③ どこへ行きたいか、そこで何をしたいかなど、旅行の希望や計画をある程度くわしく話すことができる。 Bạn có thể nói cụ thể ở một mức độ nào đó về kế hoạch hay nguyện vọng chuyến du lịch vì dụ như là muốn làm gì ở đó, muốn đi chơi chỗ nào.	☆☆☆
④ インターネットの旅行サイトに書かれたホテルや旅館の口コミを読んで、良い点や悪い点が理解できる。 Thông qua việc đọc nhận xét về nhà nghỉ kiểu Nhật hay khách sạn được viết ở trang web du lịch trên Internet, bạn có thể thấy được những điểm tốt và chưa tốt.	☆☆☆
⑤ 宿泊予定のホテルや旅館にメールで質問したり、希望を伝えたりすることができる。 Bạn có thể hỏi bằng mail với khách sạn hay nhà nghỉ kiểu Nhật về phòng nghỉ và truyền đạt nguyện vọng của mình.	☆☆☆

よくできた/良かった、あまりよくできなかった/わからなかったのはどこですか。もっと勉強が必要なおとちやもっと知りたいこと、これからの目標について書きましょう!

裏 (日本語チェックの振り返り)

文法・句型表現	評価
◆話すのに役立つ文法◆	
① 謙譲語1 : 特別な形の謙譲語	☆☆☆
② 謙譲語2 : お・ご～します/いたします	☆☆☆
③ Vていただけますか/いただけませんか	☆☆☆
④ ～になります	
◆読むのに役立つ文法◆	
① ～にもかかわらず	☆☆☆
② お・ご～いただく	☆☆☆
③ お・ご～	☆☆☆
④ おります/ございます	☆☆☆

よくできた/良かった、あまりよくできなかった/わからなかったのはどこですか。もっと勉強が必要なおとちやもっと知りたいこと、これからの目標について書きましょう!

### 日本・ベトナム文化体験記録シート

① 食べ物  
② 人  
③ エンターテイメント(映画、音楽、まんが、アニメなど)  
④ 伝統文化  
⑤ ことば  
⑥ その他

食べ物

人

エンターテイメント(映画、音楽、まんが、アニメなど)

伝統文化

ことば

その他

#### 資料4：受講生向けのアンケート調査結果

※以下のアンケート調査結果の中の4段階の評価は4（強くそう思う）、3（そう思う）、2（あまりそう思わない）、1（まったくそう思わない）である。また、以下の具体的なコメントは、受講生が記述した全てのコメントのうち主要なものである。

①7回目の授業で学ぶことは多いですか。				4	3	2	1
				17	17	1	0
<b>【肯定的な評価】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>トピック全体を振り返ることができた。教科書以外のことも学ぶことができた。</li> <li>新しいことがたくさん勉強できた。自分でもっと調べたくなった。</li> <li>文法や文化体験についての理解が深まった。</li> <li>はっきり分からない文法・表現などをしっかり復習できて、しっかり覚えられるようになった。</li> <li>自分の聞きたいことだけでなく、他の人の聞きたいことも聞くことができたので、いろいろ意見交換できて、より理解につながった。</li> <li>自分が日本語で話す時間ができた。</li> </ul>							
<b>【否定的な評価】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>受講生があまり積極的に話していないと感じている。知識の広がりがないと思う。</li> <li>復習が多かったので、つまらなかった。</li> <li>面白い質問もあれば、役に立たない質問もある。</li> <li>トピックによって学びがあるものも、そうでないものもあった。</li> </ul>							
②7回目の授業のどの部分がいいと思いますか。（複数回答可）							
振り返りシートの共有（13人）	文法や語彙などの復習（26人）	文化体験記録の共有（34人）	教科書から離れて自由に日本語で話す（32人）	その他（2人）			
<b>【Can-do日本語チェックの振り返りの共有に関連するコメント】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>6回目が終わっても、なかなか自分の学習を振り返ることができなかった。7回目の授業で足りないところを補うことができた。</li> </ul>							
<b>【文法や語彙などの復習に関連するコメント】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきり分からないことを講師に説明していただいた。文法・語彙の説明がとてもよかった。もっと使えるようになった。</li> <li>難しい文法・表現は復習する必要があると思う。授業中のPPTスライドは速いので、6回目までではまだ分からないところがある。</li> </ul>							
<b>【文化体験記録の共有に関連するコメント】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>自由に他の人と文化体験やトピックの感想を話すことができた。</li> <li>1トピックは1回から6回までで十分だと思う。難しい文法は7回目の授業で練習する必要があるが、面白くて役に立つ文化体験の共有に時間をもっと使ってほしい。</li> <li>私にとっては役に立ったと思う。振り返りシートや文化体験記録シートにベトナム語で書いた内容が全て日本語訳されていたので、勉強になった。</li> </ul>							
<b>【教科書から離れて自由に日本語で話すことに関連するコメント】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>分からないことやもっと聞きたいことを日本語で復習する時間ができた。そして、知識が広がったと思う。</li> <li>文化体験記録の共有と教科書から離れて自由に日本語で話すのは内容がかなり面白いので、気に入った。</li> </ul>							
<b>【その他のコメント】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書以外の文法・表現の意味が勉強できた。</li> <li>6回目の授業で文法・表現は復習したので、7回目ですみなくても家で自分で復習できると思う。</li> <li>自分で準備しないと効果がないと思う。</li> </ul>							
③7回目の授業を通じて、トピックへの理解が深まったと思いますか。				4	3	2	1
				11	25	3	0
<b>【肯定的な評価のコメント】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>トピックを振り返る時間ができたとし、そのトピックについて、自分の感想が話せるようになった。</li> <li>外国語を勉強するにはトピックに関連する自分の経験の話し合うのが大切だと思う。他の人とその経験について話したり、聞いたりするのはとてもいいと思う。</li> <li>自分の意見だけでなく、他の人の意見・考えを聞くことができた。</li> <li>文法・表現の使い方がもっと理解できた。動画も見ることができたとし、他の人と話し合うことができたので、コミュニケーション力をアップさせられたと思う。</li> </ul>							

<b>【否定的な評価のコメント】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6回目の授業の内容と同じで、あまり勉強できなかった。</li> <li>・ 自分の理解力がまだ低いので、理解が深まったとは感じていない。</li> <li>・ トピックについてたくさん話すわけではないので、理解が深まったとは感じていない。</li> </ul>				
④7回目の授業は自分の日本語力の向上につながっていると思いますか。	<b>4</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
	13	18	6	0
<b>【肯定的な評価のコメント】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7回目の授業で勉強したことを実際に使えるようになった。</li> <li>・ 他の授業より日本語を使う時間が多い。</li> <li>・ 日本語で復習したり練習したり動画を見たり聞いたりできたので、役に立ったと思う。</li> <li>・ 7回目の授業のおかげで、他の人と意見交換できたし、日本の文化ももっと理解できた。そして、日本語の勉強が好きになった。</li> <li>・ 自由に好きなテーマについて、より多く話すことができた。</li> <li>・ ベトナム語で書いた Can-do と文化体験記録のコメントを7回目の授業で日本語訳してくれたので、自分が日本語でコメントを書くのに役に立ったと思う。</li> </ul>				
<b>【否定的な評価のコメント】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自律学習が必要だと思う。家で自分で勉強しなかったら、授業を1回増やしても意味がない。</li> <li>・ トピックによると思う。</li> <li>・ 自分が準備しなかったので、あまり話すことができなかった。準備しなかったら、役に立たないと思う。</li> <li>・ 日本語で話し合う時間が少ないので、少ししか日本語の向上につながっていないと思う。</li> </ul>				
⑤7回目の授業は必要だと思いますか。	<b>はい</b>		<b>いいえ</b>	
	35		4	
<b>【「はい」のコメント】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トピックの全体を振り返ることができる。</li> <li>・ よく休む人にとっては、とても大切な授業だと思う。</li> <li>・ 知識や情報を集めるために、7回目の授業が必要だと思う。</li> <li>・ 情報を共有すると自分が深く考えていないところやまだ調べていないところに気づくから。</li> <li>・ 日本語で話す練習時間があるから。</li> <li>・ この講座での学習方法には他の機関にはないものがあるから。</li> </ul>				
<b>【「いいえ」のコメント】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分からないことがあれば、6回目の授業で講師に聞けるから。</li> <li>・ 6回目と7回目は1回にしたらいいのではないかと。講師はあくまで“授業中に”教えてくれる人なので、何かを身に付けたいのなら自分で勉強する必要がある。1～5回目の授業で勉強しなかったら、7回目に復習する意味はあまりないと思う。</li> </ul>				
⑥7回目の授業がなかった時、7回目の授業ができてからを比べてどう思いますか。（前半コースを2.1の内容で受講した受講生のみ対象）				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以前は分からないことがあれば、友達に聞いたり、そのままにしていた。</li> <li>・ 以前も講師がトピック全体を復習させてくれて、授業が面白かった。7回目の授業では、話し合っているうちに自分では気づかなかったことや、考えられなかったことを発見できるようになった。</li> <li>・ 文化について、トピックに関係しない話もできるようになった。</li> <li>・ もっとトピック全体を振り返ることができるようになった。</li> <li>・ 自分の感想ではなく、他の人の情報や感想などを聞いたりして、意見交換のチャンスが多くなった。</li> <li>・ 自分でいろいろな問題について考えて調べるようになった。</li> <li>・ はっきり分からない文法・表現について理解できるようになった。</li> </ul>				
⑦改善してほしいこと、もっと取り入れてほしいものがありますか。				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画でトピックに関連することを見せるのは大切だと思う。特に日本文化の大切なところを見たい。他の人の意見・感想を聞いたり、話し合ったりできればと思う。</li> <li>・ 簡単な文法をまた復習するのはつまらないと思うので、教科書以外のことをもっと話し合う時間がほしい。</li> <li>・ 講師と受講生とのやり取りの時間を増やして、日本語、日本文化、日本人についてもっと紹介してほしい。</li> <li>・ 講師と受講生、受講生同士が日本語でトピックについて話し合う時間がもっとほしい。自由に自分の感想をもっと話したい。</li> <li>・ 7回目の授業で文法を復習すると、授業がつまらなくなると思う。その代わりにみんなとトピックについて話し合いたい。</li> <li>・ プレゼンテーション、会話練習、スピーチ、グループワークの活動ができるといい。</li> <li>・ 7回目の授業はあまり役に立たないので、6回目の授業と7回目の授業は1回にしたらいいと思う。</li> <li>・ 時間調整が必要だと思う。大切なポイントを中心に授業時間を使ってほしい。</li> </ul>				



## 資料5：講師向けのアンケート調査結果

※以下のアンケート調査結果の中の4段階の評価は4（強くそう思う）、3（そう思う）、2（あまりそう思わない）、1（まったくそう思わない）である。講師向けアンケートについては、具体的に記述されたコメントの全てをまとめて提示している。

<p><b>①7回目の授業がなかった時と7回目の授業ができてからを比べて、受講生が書いた Can-do/日本語チェックと文化体験記録に変化はありましたか。</b></p>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前はちゃんと書かなかった人がいたが、現在は自分の意見を他のクラスメートと共有する機会があるので、積極的に書こうとする人が増えた。また、自分でもっと調べたりして、クラスメートとの共有に協力的な受講生もいる。</li> <li>・文化体験記録を授業で取り上げると、取り上げられた受講生は皆嬉しい表情を見せる。このことは新しい文化体験をしようというモチベーションを高めることに役立ったと思う。多くの受講生が以前よりも熱心を書くようになってきている。</li> </ul>				
<p><b>受講生の各トピック（テーマ、各Partの内容）の理解度に変化があったと思いますか。</b></p>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に文法の理解度が上がったと思います。</li> <li>・各パートの内容をつないで、トピックのテーマを全体として考え、理解しようとする事ができるようになったと思う。</li> </ul>				
<p><b>②7回目の授業で特に重要だと思う要素はどれですか。（2つまで）</b></p>				
振り返りシートの共有(1人)	文法や語彙などの復習(1人)	文化体験記録の共有(2人)	教科書から離れて自由に日本語で話す(0人)	その他(0人)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中級は語彙が多くて、文法も一回だけの簡単な説明では納得しない人がいるので、7回目の授業での復習や練習を通じて、日本語力が身につけられる。また、コースの目標の一つは文化理解なので、文化体験記録の共有という要素は必要だと思う。</li> <li>・教室で自分と同じ内容を同じ方法で学習した自分以外の受講生がどのように受け取り、考えたり感じたりしたかということを知ることはその受講生が学習したことの幅を広げることにつながると思う。</li> </ul>				
<p><b>③7回目の準備をするときに、どんなことに気をつけていますか。また、苦勞している点などありますか。</b></p>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トピックから大きく外れない練習を作るのが大変。また、文化に関して知識が浅いので、対応するのが大変。</li> <li>・受講生が書いた内容を他の受講生が理解しやすいように表現を変えてまとめる際、その受講生の意図が変わらないように気をつけている。</li> </ul>				
<p><b>④7回目の授業を担当しているとき、受講生の様子はどうでしたか。（授業への取り組み、姿勢、態度、モチベーション等）</b></p>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・7回目の授業の目的、意味に疑問を持っている人がいるが、全体的には面白くて、いい勉強ができていように感じられる。</li> <li>・受講生は7回目の授業を楽しみにしており、生き生きと発言し、また他の受講生の発言をしっかり聞こうとする姿勢がある。この授業のモチベーションはかなり高いと思う。</li> </ul>				
<p><b>受講生の振り返りや復習を促すために、何か工夫をしていますか。具体的に書いてください。</b></p>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生が難しく、理解できないと受け止めている文型などにおいて、自分だけが理解できていないという思いから解放され、精神面での負担を軽くすることができ、そして内容が理解できたか、その受講生の表情を確認するようにしている。</li> </ul>				
<p><b>⑤7回目の授業は必要だと思いますか。</b></p>			はい	いいえ
			2	0
<ul style="list-style-type: none"> <li>・決まった内容の他の授業と比べて、受講生が自由に話せるチャンス（ディスカッション、意見交換）なので、続けてほしい。</li> <li>・もちろん！7回目の授業があって、初めて一つのトピックの授業が完結すると思う。</li> </ul>				
<p><b>⑥7回目の授業を経験して難しいと感じている点や、今後改善が必要だと感じる点などはありますか。具体的に書いてください。</b></p>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間が限られているので、全員のものを取り上げた時、紹介だけに終わって、内容を深めることができないことがある。このことについては、対策・改善が必要だと思う。</li> </ul>				